

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名

私たちはどう生きるか with 人工知能 ～「確かさ」の十分な情報を根拠に意見文を書く～

2 単元の目標

- (1) 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ
(2) 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
(3) 自らの主張を支えるために必要な情報をインターネットや本などから集めようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の信頼性の確かめ方を理解するとともに、自らの主張と関連する情報を使っている。(2)イ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①チェックリストと照らし合わせながら、学習の見通しをもって、必要な情報を集めようとしている。

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、社会生活の中から「人工知能」という題材を選択し、自らの主張に対応した確かな情報を集め、意見文を書くという言語活動を行う。これは、中学校学習指導要領国語編（平成29年告示）の第3学年「2〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと」の言語活動例ア「関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。」を踏まえている。今回は、生徒の考えに幅を持たせるため、生徒が教材の内容に固執せず、自由な発想で考えてほしいという思いから、批評文ではなく、意見文を書かせる。本校の実態としては、自らの主張は持つことができたとしても、その主張を支える根拠となる情報を集めることに課題が見られる。そこで今回の学習では、主として「情報の収集」に焦点を当てる。自らの意見や主張を相手に伝えようとする際に、根拠を明確にすることは必要不可欠である。自らの主張と照らし合わせながら、確かな情報を集めさせることで伝えたいことが明確になると考える。したがって、今回の言語活動の目的を、「自らの主張を支えるために確かな情報を集める」と設定する。

教材として、光村図書『国語3』に掲載されている「人工知能との未来」（羽生 善治）、「人間

と人工知能と創造性」(松原 仁)を使用する。本教材は、人工知能との付き合い方について述べた二つの論説で構成されている。近年、人工知能の技術が発達し、今後必ずと言って良いほど生徒たちが人工知能と関わっていく機会が増えていくと予想される。生徒たち自身に「自分」の具体的な関心や生活とのつながりの中で人工知能との付き合い方を考えていききっかけとなるよう指導したい。二人の筆者の主張を踏まえて、自分の意見を持つことができるため、様々な角度で物事を捉えることができる教材だと考えられる。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、社会生活の中から「人工知能」という題材を選択し、自らの主張に対応した確かな情報を集め、意見文を書くという言語活動を通して、[思考力、判断力、表現力等]の「B(1)ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする」力を身に付けさせたい。学習指導要領解説には、「題材を求める範囲を、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなど社会生活全般」とした上で、「集めた材料の客観性や信頼性を確認することを求められる。」とある。このことに留意したうえで、自分の考えを支える根拠として、客観性や信頼性の高い適切な情報を、書くための材料として採用させたい。

また、本単元の言語活動を通して、[知識及び技能]の「(2)イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し、使う」力を身に付けさせたい。学習指導要領解説には、「情報を受信する際にも発信する際にも、その情報の事実関係や裏付ける根拠、一次情報の発信元や発信時期など、情報の信頼性について確かめることが重要である。」とある。本単元においては、集めた情報の客観性や信頼性を確かめることができるよう「チェックリスト」を使用し、生徒が情報の客観性や信頼性を確かめる力を身に付けさせたい。また、学習指導要領解説には、「一つの情報だけで確認するのではなく、複数の情報に当たることも重要」とあり、生徒たちにもできる限り多くの情報を集めさせ、取捨選択ができる場面を設定する。

5 指導と評価の計画(5時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価内容
1	○二人の筆者の人工知能との付き合い方に関する主張を確認する。 ○人工知能と生きていくために必要なことについて、どう思うか考える。		
2 3	○意見を支える根拠となる情報に必要な「確かさ」とは何か考える。 ○自分の意見を支える根拠となる情報を集める。 ○チェックリストを使って自分の集めた情	[主体的に学習に取り組む態度] [知識・技能]	観察 Jamboard チェックリスト ワークシート①

	報の「確かさ」を確認する。		
4	○グループ内でそれぞれの主張に対して、どの情報が最も「確かさ」が高いかを検討する。 ○グループでの検討を踏まえ、根拠とする情報を選択する。	[思考・判断・表現]	Jamboard チェックリスト ワークシート②
5	○自分の主張と根拠となる情報を Google ドキュメントにまとめる。 ○接続語や指示語を使い、文章を整える。	[思考・判断・表現]	Google ドキュメント

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
事前	○人工知能に関する二つの文章を読み、それぞれの筆者の主張や要点をまとめる。	・身近にある人工知能の例を挙げるなどして、生徒の興味関心を引く。 ・筆者の主張や要点は、ワークシートを用いて、穴埋め形式でまとめさせる。	
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○スライドを見ながら、二人の筆者が人工知能とどう付き合うべきだと主張しているか確認する。 ○自身の生活を振り返りながら、人工知能と生きていくために必要なことを考え、自らの意見を Jamboard に付箋として貼り付ける。	・学習計画表を用いて、本単元のねらいや言語活動を理解させ、学習の見通しを立たせる。 ・二人の筆者の主張をスライドにまとめ、見せることで、視覚的に情報が入るようにする。 ・二人の筆者の主張に対して意見を持つことにこだわらず、自分の意見が持てるように指導する。	

2 3	○インターネットや本、新聞、実体験などから、自分の意見を支える根拠となる情報を集める。 ○集めた情報は Jamboard に付箋として貼り付ける。 付箋の色： インターネット→黄色 本→緑 新聞→青 実体験→ピンク	・情報として必要な言葉のみ選んで、付箋に張り付けるように指導する。 ・集めた情報はナンバリングするよう指導する。 ・情報収集を行う中で、自分の意見が修正されてもよいことを伝える。 ・同じ事柄でも複数の情報を集めるように指導する。	
	○教師から提示された例を参照しながら「確かさ」の十分な情報かどうかを話し合う。 【確かさ】 インターネット：発信者、発信日、複数の情報源など 本：書名、著者名、発行年、出版社など 新聞：出版社など 実体験：複数の情報源など その他：反例など ○集めた情報をチェックリストと照らし合わせることで、「確かさ」を確かめる。 ○Google jamboard を使って「情報の確かさ」と「主張と情報のつながり」のレベルを考える。	・2時間目で集まった情報を基に「確かさ」が不十分な事例をスライドで作成する。作成したスライドを生徒に見せ、「確かさ」について話し合わせる。 ・出典の示し方など「確かさ」の表し方を指導する。 ・チェックリストを配付し、生徒が自分の集めた情報の「確かさ」が十分であるか確認できるようにする。 ・Google jamboard で「情報の確かさ」(縦軸)と「主張と情報のつながり」(横軸)のグラフを作成し、生徒に集めた情報の付箋を貼りつけさせる。	[主体的に取り組む態度]① 観察・Jamboard ・集めた情報を、チェックリストと照らし合わせながら確認しているか。 [知識・技能]① ワークシート① (チェックリスト) Jamboard ・チェックリストと照らし合わせ、出典をおさえるなど適切な情報を使うことができるか。

4 (本時)	○グループに分かれ、自分の主張とそれを支える根拠となる情報を共有する。 ○グループ内でそれぞれの主張に対して、どの情報が最も「確かさ」が高いかを検討する。 ○グループ内の検討を踏まえ、必要だと思う情報を選択する。	・各グループに出席番号順で発表するように指示を出す。 ・スムーズに検討が行われるように検討の仕方の例を挙げる。 ・アドバイスを受け、自分の主張と照らし合わせながら、情報を選択するよう指導する。その際、主張が変わってもよいことを伝える。	[思考・判断・表現] ① ワークシート② Jamboard ・グループでの検討を通して、集めた情報の客観性や信頼性を確認し、自らの主張とのつながりを意識しているか。
5	○Jamboard に貼り付けた付箋をコピーし、ドキュメントにペーストする。 ○必要であれば、自分の主張を整理する。 ○「例えば」「具体的には」「つまり」「以上のことから」など接続語や指示語を使い、文章を整え、ドキュメントを完成させる。	・Jamboard に張り付けた付箋の内容が、そのままドキュメントに活用できることを伝える。 ・自分の主張に変化が起きることは悪いことではないことを伝え、必要であれば修正を加えるよう指導する。 ・黒板に生徒が使いそうな接続語を提示する。 ・以前学習した「具体と抽象」の関係を思い出すよう伝える。	[思考・判断・表現]① Google ドキュメント ・適切な情報を集めることで、伝えたいことが明確になっているかどうか。

6 本時の展開

(1)本時の目標

- ・グループでの検討を通して、集めた情報の客観性や信頼性を確認し、自らの主張とのつながりを意識することができる。 【思考力・判断力・表現力等】B(1)ア

(2)展開

時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法
3	・本時までの学習の流れを確認する。 ・本時の学習課題を確認する。	・モデルとなる生徒の Google Jamboard をTVに映し出し、これまでの学習の流れを説明する。	
	「確かさ」の十分な情報かどうかを検討しよう		
42	・グループに分かれ、人工知能と生きていくために必要なことに関する自分の主張と根拠となる情報を共有する。 ・ワークシートが配付される。 ・グループ内でそれぞれの主張に対して、どの情報が最も「確かさ」が高いかを検討する。 【検討の仕方の例】 ①Google jamboard を見せながら、自らの主張と集めた情報を班員に伝える。 ②班員に自分の Google jamboard を見せ、「確かさ」と「つながり」がどれくらいあるのか意見をもらう。意見する側は、理由も説明できるようにする。 ③班員の判断を受けて、自分	○共有する順番を名前の順で行うよう指示する。 ○検討会で使用するワークシートを配付する。 ○スムーズに検討が行われるように検討の仕方の例を挙げる。 ○ワークシートに班員のアドバイスをメモするよう指示する。 ○班員の情報を判断する際やアドバイスをする際には、理由もあわせて伝えるとよいと指示する。また、アドバイスをする際にチェックリストの文言を使ってもよいことを伝える。	◆グループでの検討を通して、集めた情報の客観性や信頼性を確認し、自らの主張とのつながりを意識しているか。 (ワークシート②) (Google Jamboard) 【思考・判断・表現】

	はどの情報を選択しようと考えているか班員に伝え、班員からアドバイスをもらう。		
5	・グループ内の検討を踏まえ、必要だと思う情報を選択する。	○アドバイスを受け、自分の主張と照らし合わせながら、情報を選択するよう指導する。その際、主張に変化があってもよいことを伝える。	

(3)評価

・グループでの検討を通して、集めた情報の客観性や信頼性を確認し、自らの主張とのつながりを意識している。

【思考・判断・表現】

7 参考文献・参考資料

・石丸憲一(2022).『Chromebook でつくる中学校国語の授業』.明治図書出版.